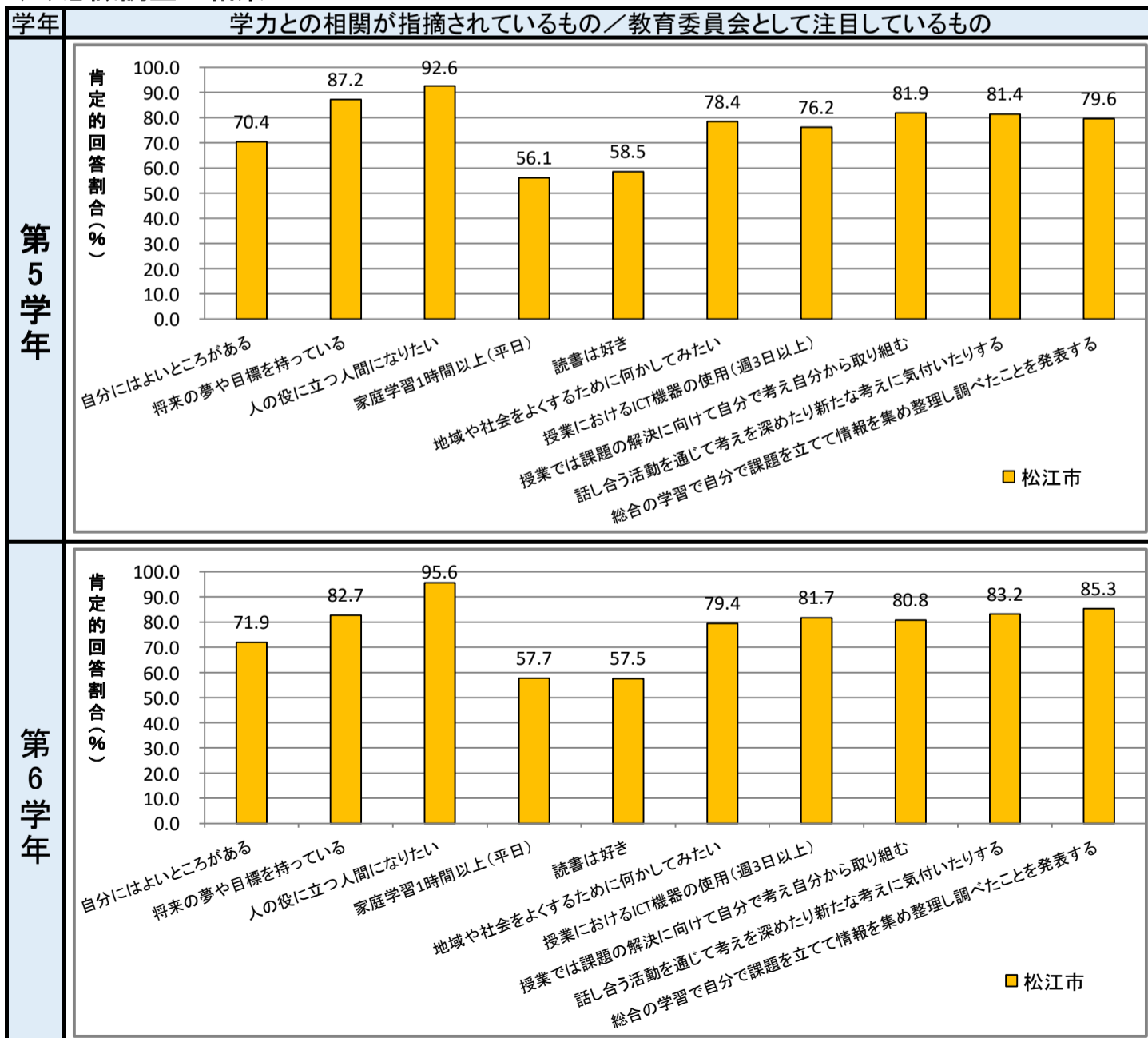


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(・)
第5学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」の領域において、言語活動インタビューでは、意図に応じて話す内容を捉えたり質問を工夫したりすることは概ねできている。 ○「我が国の言語文化に関する事項」において、漢字の由来についての基本的な理解は概ねできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・記述する前の、話や文章の内容をもとに既存の知識や理解した内容とを結びつける段階をていねいに扱うとともに、自分の考えをまとめる機会を豊富に設定するようにする。 ・「読むこと」の領域の学習において、単元の中で教科書教材だけではなく、扱う指導事項に関連する図書資料を提供したり発展的に扱ったりすることにより読書の幅を広げるようにする。
		課題 ●全領域を通じて記述の回答形式に苦手意識が見られ、話の内容や文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに課題がある。 ●問題の後半になるにつれて無答率が高くなっていることから、長文を読み通す力や読み慣れに課題がある。	
第5学年	算数	成果 ○「小数のかけ算・わり算」や「分数のたし算・ひき算」の基本的な計算問題を解くことができる児童が多い。 ○「数と計算」領域における整数を偶数と奇数に類別することや公約数についての理解を問う問題の正答率が推定全国値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・図のどの部分が式の数量に当たるのかを丁寧に確認しながら、図と式を行き来する活動を重ね、数量の関係を筋道立てて捉えられるようにする。 ・人数と面積を同じ基準で比べるために「1㎡あたり何人か」を図などで確かめ、単位量あたりで比べる理由を自分の言葉で説明する機会を多く設定する。
		課題 ●分数倍の図を読み取ったり、小数の除法の文章を図に表したりするなど、図と式を結びつけて考えることに課題がある。 ●「単位量あたりの大きさ」の問題において、小屋の面積の違いに着目して、どちらの小屋が混んでいるかを説明することに課題がある。	
第6学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」の領域において、相手の考えや立場などを踏まえながら自分の考えを広げたりまとめたりすることは概ねできている。 ○「書くこと」の領域において、図表を用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する意識は高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたことと既存の知識をつなげる過程を丁寧に扱うようにする。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、個別の知識や単なる技能としてではなく、実際の話す・聞く・書く・読むという言語活動を通して言葉の特徴やきまりに気付くようにしたり、実際の言語活動に生かしたりするように扱う。
		課題 ●「読むこと」の領域において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに課題がある。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、連用修飾語や、文と文との接続の関係など基本的な事項の理解に課題がある。	
第6学年	算数	成果 ○「比の値」を求めたり、「度数分布表」を完成させたりする力が身につけており、[用語・記号]について理解している。 ○「分数のかけ算・わり算」の基本的な計算や乗除混合計算をする問題の正答率は、推定全国値と同等である。	<ul style="list-style-type: none"> ・整数・小数・分数のどの場合でも同じ考え方が成り立つことを、日常の計算場面において繰り返し確かめ、計算のきまりを一貫して捉えられるようにする。 ・文字や分数の乗法を含む式が「どの数量どうしの関係を表しているのか」を、図や具体的な場面と結び付けて読み取る活動を重ね、式が表す意味を筋道立てて説明できるようにする。
		課題 ●分数の場合についても、整数や小数の場合と同じように計算のきまりが成り立つことの理解に課題がある。 ●文字を使った式の意味を読み取ったり、分数の乗法(分数倍)を適用して式の意味を説明したりすることに課題がある。	

(2)意識調査の結果



<傾向と今後の対策、分析>
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】
 ○将来の夢や目標、人の役に立ちたいという思いをもっている児童の割合が高い。
 ○主体的な学び、対話的な学びに対して肯定的回答の割合が高い。
 ●家庭学習1時間以上の割合が低いため、効果的な方法の事例をまとめ、市全体で共有する。
 ●読書好きの児童の割合が低いため「読書好きを育てる」をテーマとした図書館に係る研修を充実させる。

【第6学年】
 ○人の役に立ちたいという思いをもっている児童の割合が高い。
 ○授業におけるICT機器の活用(週3回以上)や総合的な学習に対して肯定的回答割合が高い。
 ●家庭学習1時間以上の割合が低いため、効果的な方法の事例をまとめ、市全体で共有する。
 ●読書好きの児童の割合が低いため「読書好きを育てる」をテーマとした図書館に係る研修を充実させる。

【受検者数】

第5学年	1,617	名
第6学年	1,613	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示

<参考>平均正答率

	国語	算数
第5学年 松江市	50.1	54.8
推定全国値と比較して、課題があるといえる。		
	国語	算数
第6学年 松江市	54.0	64.6
推定全国値と比較し、おおむね良好といえる。		